



# 鳥類標識調査とガンカモ類の生息調査について

環境省自然環境局生物多様性センター 生態系監視科、保全科

## 鳥類標識調査

鳥類標識調査は、野鳥の生態や移動経路等を把握するための基礎的データを収集するための調査で、捕獲した野鳥に個体識別のための足環等を装着して放鳥し、再捕獲や観察によって情報を収集、解析するものである。わが国では、1924年に農商務省によって初めて行われて以来約90年にわたって実施されており、現在は環境省から(公財)山階鳥類研究所への委託事業として実施している。1961年からの合計放鳥数は500万羽を超過し、膨大なデータが蓄積されている。

### 鳥類目録第7版における標識調査による初記録種

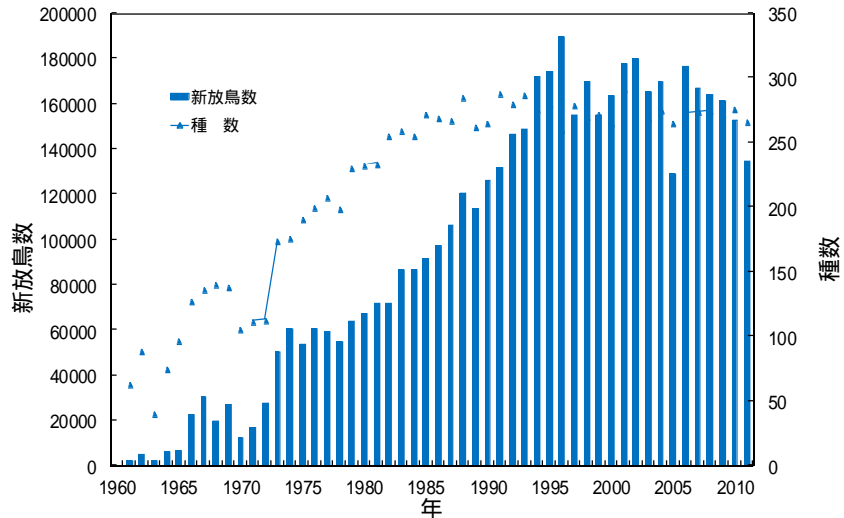
種名	学名
カンムリオウチュウ	Dicrurus hottentottus
キバラガラ	Periparus venustulus
ニシイワツバメ	Delichon urbicum
コノジロムシクイ	Sylvia curruca
チョウセンメジロ	Zosterops erythropleurus
セスジコヨシキリ	Acrocephalus sorghophilus
ヤブヨシキリ	Acrocephalus dumetorum
ヨーロッパコマドリ	Erithacus rubecula
ミヤマヒタキ	Muscicapa ferruginea
マキバタヒバリ	Anthus pratensis

標識調査によって、これまでにヤンバルクイナをはじめとする日本初記録種が確認されている。2012年に発行された鳥類目録第7版の新規記録種のうち、10種は標識調査によって確認された種である。



足環の装着

装着した足環



年別標識放鳥数と種数(1961-2011)

調査開始以来、新放鳥数、種数ともに増加傾向が続き、新放鳥数は1997年には約19万羽を記録した。その後は13万羽から18万羽の間で増減が見られる。種数は1999年に292種を記録し、その後は270種前後で推移している。2012年の標識調査では、新たに約16万羽が放鳥された。

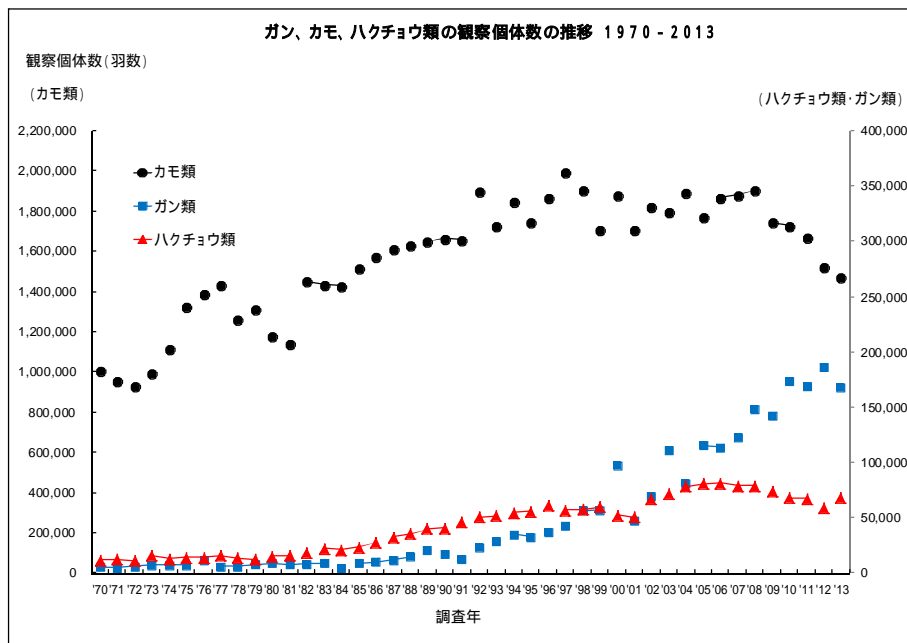
鳥類アトラスWeb-GISで標識調査の結果を見ることができます。

左の図はシジュウカラの例。 <http://www.biodic.go.jp/birdRinging/top.html>

## ガンカモ類の生息調査

ガンカモ類の生息調査は、わが国で越冬するガン、カモ、ハクチョウ類の保護管理のために、それらの種構成ならびに生息数、渡来傾向、分布状況などの基礎的データを得ることを目的として、1970年、まだ環境庁が発足する以前、鳥獣行政が林野庁所管の時代に各都道府県の協力を得てスタートした。その後、1972年から環境庁に移管され現在に至っている。調査方法は、毎年1月中旬に調査日を定め、その日を中心に全国で集中的に、ガン、ハクチョウ類については渡来地のすべて、カモ類については可能な限り多くの渡来地を調査地点として、目視により種ごとの観察個体数を記録している。全国の約9,000地点で延べ約15,000人の調査員の協力を得て行われている。

調査開始以来の観察個体数の推移を見ると、それぞれ年により増減があるものの、ガン類はこの数十年で特に増加傾向がみられ、ハクチョウ類は長期的に漸増傾向にある。カモ類は調査開始以来増加傾向にあったが、1996年をピークに減少傾向にある。



調査の様子 (山梨県河口湖)